開会の辞

ドブリ・デン、御列席の皆さん！

本日、この古い伝統あるカレル大学で名古屋大学文学研究科グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」の国際研究集会を開催できることを大変嬉しく存じています。大学として輝かしい栄光に包まれたカレル大学は、神聖ローマ皇帝カール 4 世によって創設されました。ここプラハの地で生まれたこの皇帝は、少年期にフランスのパリ宮廷に預けられ、カペー朝からヴァロワ朝への王朝交替という歴史的事件を直(じか)に見聞した人物として、フランス中世史を専門にする私にとって、身近な存在です。このチェコ語をはじめとして、フランス語、ドイツ語、イタリア語を自由に駆使した、教養豊かで英明な王が作り、世界のアカデミアや文化世界に多くの卓越した人材を輩出したこの大学で、私どもの第 8 回国際研究集会「日本語テクストの歴史的軌跡――解釈・再コンテクスト化・布置」を、カレル大学の尊敬すべき同僚の皆さんとともに行なうことは、まことに意義深いことと存じます。

本日から三日間の予定で、日本語テクストについての併せて16の報告と、これらを巡る活発な議論が繰り広げられることと思います。日本の文部科学省が大学への競争原理の導入を目的として創設した「センター・オブ・エクセレンス」プログラムの始まりは、2002年に開始され2006年に終了した「21世紀 COE」プログラムでした。名古屋大学文学研究科は、極めて厳しいスクリーニングをパスして、人文科学系で全国12大学の採択校の一つに入ることができました。そのプロジェクト名は「統合テクスト科学の構築 Studies for the Integrated Text Science」と題されました。このプロジェクトは先にも指摘したように2006年に終了し、最高レベルの事後評価を得ました。2007年に開始された第 2 期のプログラムにも、「テクスト布置の解釈学的研究と教育」の名称で、より厳しい審査に臨み、人文系採択10プロジェクトの一つとして再度採択されました。

さて、今回の文部科学省プログラムの力点は大学院生の教育を重視するところにあります。この点は私どもが先のプロジェクトでも重視しておりましたが、今回のプログラムでは尚一層の努力が求められています。この度の研究集会プログラムに、特に若い方々の報告が多く予定されているのは、そうしたプログラム上の背景も御座います。その意味で今度のプラハ集会が、日本とチェコ双方において、大学院生教育の一層の充実に向けた転換点になるよう心から願っている次第です。

最後に本プラハ集会を提案された名古屋大学の同僚高橋亨教授と、カレル大学側で受け入れの労をお取りいただいたマルティン・ティララ准教授に心からの感謝を申し上げます。

グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」拠点リーダー
名古屋大学大学院文学研究科特任教授　佐 藤 彰 一